

<p>＊台風被災者支援カンパのお礼＊</p> <p>日比 NGO ネットワークを通じて 3 万円を、名古屋の NGO・ICAN を通じて 1 万 6 千円をカンパし、マニラ住民の復興支援に協力させていただきました。</p> <p>＊ハイチ地震被災者お見舞い＊</p> <p>未曾有の犠牲者・被災者数が推定されています。1 日も早い復興をお祈りします。</p>	 <p>2010 年 1 月 25 日 発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://homepage3.nifty.com/hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	--

サムラングの古くて新しい問題 — 鉱山開発・先祖伝来の土地喪失の危機

「マイニング(鉱山会社)だ！」

昨年の 11 月 13 日、簡易水道事業を実施したゴメロ村訪問を終え、サムラング村に向かっていた時のことです。リコさんが「マイニングの車だ！」と叫びました。見ると白い乗用車が 1 台また 1 台、合計 4 台が山道を下って行きます。パイナップルを満載したトラック以外、車と行き交うことのない道を行く白い車の列はインパクトがあります。

当会は 14 年前、サムラング村で活動を始めました。当時はオーストラリアの多国籍企業 WMC が銅鉱の試掘を始めており、土地提供に同意の拇印を押してしまった住民のため CMB(現 CMIP)の神父たちが奔走していました。NGO、教会、住民組織の長期にわたる粘り強い反対運動により WMC は数年後に撤退しました。しかし、時を経て SMI(サギタリアスマイニング)と名を変え進出してきたのです。しかも、今度は先住民族の権利を守るはずの国家先住民族委員会の承認を得ており、現在は広大な対象地域内の村長攻略の段階のようです。サムラング村があるビラーン村村長はすでに受け入れたとのこと。すれ違った白い乗用車列もどこかの村長を訪ねての帰路だったかもしれませぬ。

鉱物資源の開発には環境破壊や先祖伝来の土地喪失の危険が潜んでいます。国家先住民族委員会が承認してしまった今、頼りは住民組織やそれを支える NGO、教会などの結束です。この訪問でお会いした CMIP 新ディレクターのエドウィン神父は正義感の強い、頼もしい方でした。

サムラング村土地問題の現在

会報 48 号でお知らせし、会員のカンパで弁護士費用を支援したサムラングの土地問題ですが、3 年たった今もメホラダ氏によるビラーンの土地 587 ヘクタールの

所有権主張、売却申請は凍結状態です。住民も「先祖伝来の自分の畑」を耕しています。身の危険を感じながら住民とともにデモや陳情を行ったビラーン人のファーディ神父やそれを引き継いだノイ神父の抗議文書の効果があったようです。ただし、申請書の売り渡し先リストにサムラング住民 42 世帯の名前が含まれていない事実が判明して、住民の不安は増えています。土地を守る対抗策である「先祖伝来の土地」を保証する CADT 取得の手続きは、進展していない模様です。以下は住民と子どもたちの近況です。

— ドール社とのパイナップル契約栽培 —



契約金ヘクタール当たり 9 万ペソに魅かれ、急速に契約栽培が広がっています。サンさんは 10 年の契約終了を待たずにコーン畑に戻しました(写真手前は抜き取ったパイナップルの株)。3 年ごとの植替え、品質次第の不安定な価格、単一栽培による地力低下などがコーン回帰の理由です。

— 大きなハンカチありがとう！ —



キャンペーンで集まったハンカチ。サムラング村では幼稚園児の手洗い教育に活用しています。